



小牧市民病院 皮膚科部長医師

## 平 真理子

## ハチ刺されの話



夏になり昆虫たちの活動が活発化し、私たち人間と接触する機会が多くなります。ハチ、アリ、カ、ドクガなど昆虫だけでも人に皮膚病を起こす虫が多数います。今回は、「ハチ刺され」についてのお話です。

### ハチの毒

ハチは全世界で10万〜13万種を数え、日本には5千種が生息するといわれています。その中で人を刺すハチは40種で、問題となるのは約20種です。刺すハチは集団で社会生活を営む種で、単独で営巣するハチは刺しません。ハチの攻撃習性は種によって違いがあり、もともとも攻撃的なのはオオスズメバチ（体長27〜40mm）です。ミツバチ、アシナガバチ、スズメバチが主として問題となるハチです。

ハチの毒針は産卵管が変化してできたもので、毒は毒腺で製造され、毒嚢に貯められます。ミツバチの毒針はのこぎり状になっており、釣り針のように棘が出ており、いったん刺されるとなかなか抜けない構造になっています。更に針はハチとの固定が弱く、ハチが千切れ落ちても針と毒嚢が残ることがあります。毒嚢をつぶさないように針を抜くことが大事です。

一方、スズメバチは、大きな

顎で噛みついて体を固定し、何回も刺します。それだけ入ってくる毒の量が多くなります。

### ① ハチ刺されの症状

#### ① ハチ毒による症状

ハチが皮膚を貫くときの痛みと、ハチ毒による痛みがあります。毒は刺した部分に赤みと腫れを生じさせ、皮膚組織を破壊します。時にはリンパ節が腫れることもあります。初回に刺された場合は数時間で治まることが多いですが、2回目以降は、刺されて2、3日は症状（赤みと腫れ）が強くなり、治まるまでに1週間くらいかかります。

### ② アレルギー反応

ハチに刺されて1カ月くらいのちに、人によってはハチ毒に対するアレルギーを持つことがあります。そうすると、2回目以降に刺された場合に全身的症状が生じます。軽いものでは蕁麻疹、倦怠感などですが、強くなると口のしびれ・のどの渇き・下痢・吐き気・頭痛などが生じ、さらには呼吸困難・血圧低下・意識消失などいわゆるショック状態になる方があります。年間数十人がハチに刺されて亡くなりますが、原因の多くは

気道が腫れたための窒息によるものです。

### 刺された場合は

● ミツバチは針を皮膚内に残すので、毒嚢をつぶさないように毒針を抜き取る。他のハチでもたまたま残すので見落とさず抜き取ります。

● 刺された直後であれば、陰圧で吸引する器具（ポイズンリムーバー）で毒を吸い出す。

● 刺入部を水洗し冷水で冷やす。

● 全身の症状（赤み・痒み・痛みなど）が出たら医療機関を受診してください。

● 刺されて1カ月後にハチアレルギーの採血検査をします。

### 検査が陽性の場合：

次回刺された時に、より強い症状が出ると思われます。ハチ毒はハチの種類により、組成が異なりますが、互いに重複してあるものが多く、1種類のハチに刺されても、他のハチのアレルギーを持つことがあります。

**職業上ハチに刺される機会が多く、検査が陽性の方**

緊急時にショックを防ぐエピネフリンを自分で注射できる器具（エピペン）の購入をお勧めします。

問合せ 市民病院 ☎ 76-4131